資料７

策定要領

自治体名　　第２･３期SDGs未来都市計画（案）

（2026～2030）

計画のサブタイトル等がある場合は

ここに記載することが出来ます。

自治体名

1．はじめに

「SDGs未来都市」については、これまで3年間の SDGs未来都市計画を策定し、その達成に向けた取組を積極的に実施することとしていました。

令和7年5月 22 日に開催された第 101 回自治体SDGs推進評価・調査検討会において、2025 年度に計画期間が終了する 2020 年及び 2023 年度SDGs未来都市については、2026 年度～2030 年度までの○年間の第2・3期SDGs未来都市計画（以下、「計画」という。）を策定するか都市で判断し計画を策定することが確認されました。計画の策定を予定している都市につきましては、計画の策定をお願いいたします。

計画策定に当たって、不明点等があれば、下記の連絡先までお問い合わせください。

【問い合わせ先】
内閣府地方創生推進室
E-mail：g.Local-governments-SDGs@cao.go.jp　電話：03-5510-2199

2．基本事項

- 計画策定の流れは、令和7年○月○日付事務連絡「【ご依頼】第2・3期SDGs未来都市計画の策定について」の添付資料1「SDGs未来都市計画策定作業の流れ」を御参照ください。
- 計画期間は、原則 2026 年度から 2030 年度までの計画となります。
- 原則として、現計画の内容を踏まえた計画としてください。
- 現計画で、自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）を記載されていた自治体においては、「2　自治体SDGsの推進を資する取組」等へ含める形で記載してください。
- 計画（素案）の作成に当たっては、自治体SDGs推進評価・調査検討会による進捗評価結果を踏まえて作成してください。
- 計画に記載いただいた内容について、有識者の支援も得て定期的に取組の進捗状況確認を行い、その達成度を明確にする予定としています。

3．留意事項

【文章量について】

- 簡潔で読みやすい計画となるよう意識し、**全体で 30 頁以内を目安**に作成してください。
- 冗長な記載とならないよう、必要な内容を簡潔に記載してください。
- 一部の項目については、頁数の目安を示しておりますので御留意ください。

【体裁等について】

- 文字は注記、解説、表中の記述等を除き原則として 11 ポイント以上の大きさとしてください。
- 文章の語尾は「です・ます調」ではなく、「だ・である調」に統一してください。
- 改ページの位置は変更しないでください。
- 必要に応じ、図や画像を使用して作成してください。
- 必要に応じ、客観的、定量的なデータを記載してください。
- 地域固有の事情の説明等で文章が長くなる場合については、必要に応じ、「解説」として各記載欄の末尾に付記してください。
- 本策定要領及びフォーマットに記載された、各項目の内容は、変更せず作成ください。

＜ 目次 ＞

1　将来ビジョン

（１）地域の実態……2
（２）成果と課題……X
（３）2030 年のあるべき姿……X
（４）2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット……X

2　自治体SDGsの推進に資する取組

（１）自治体SDGsの推進に資する取組……X
（２）情報発信……X
（３）普及展開性……X

3　推進体制

（１）各種計画への反映……X
（２）行政体内部の執行体制……X
（３）ステークホルダーとの連携……X
（４）自律的好循環の形成……X

4　地方創生・地域活性化への貢献……X

現計画で、自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）を記載されていた自治体においては、「2　自治体SDGsの推進を資する取組」等へ含める形で記載してください。

※改ページ

１　将来ビジョン

（１）地域の実態

【策定要領】

・地域特性等について、計 4 頁以内を目安に記載してください。

・地域特性については、地理的条件、人口動態、産業構造、地域資源等について記載してください。

・既存の取組等に関する記載は、必要最小限に留めてください。

【策定のポイント】

・各都市の地域特性を的確に把握し、今後取り組むべき課題を丁寧に分析できているか。

・「（2）2030 年のあるべき姿」をはじめとして、計画全体との関連性・整合性があるか。

地域特性

〇〇〇。

※改ページ

（２） 成果と課題

【策定要領】

・第２・３期SDGs未来都市計画にどう繋げていくのか、第１・２期SDGs未来都市計画の成果と課題について、１頁程度を目安に記載してください。

【策定のポイント】

・進捗評価の内容を活用する等、主要な KPI を掲載し、具体的かつ簡明に記載ください。

※改ページ

（３）2030 年のあるべき姿

【策定要領】

・2030 年のあるべき姿（将来像）を、計 2 頁以内を目安に記載してください。

・あるべき姿を構成する様々な要素の説明については、箇条書きと概要説明を基本としてください。（下記記載例参照）

【策定のポイント】

・抽象的な概念に留まらず、バックキャスティングの発想を有効に機能させ、中長期の視点から持続可能なまちの姿を、様々な要素（例：都市像や市民生活、経済・社会・環境面、制度やステークホルダーとの連携等）を踏まえて、具体的に記載されているか。

〇〇。

① 〇〇〇〇

〇〇。

② 〇〇〇〇

〇〇。

※記載例

① 〇〇〇〇な都市

・〇〇〇〇のエリアにおいて、〇〇〇〇や〇〇〇〇等の取組が進むことにより、〇〇〇〇や〇〇〇〇の都市が実現している。

② 〇〇〇〇な暮らし

・〇〇〇〇を対象にした、〇〇〇〇や〇〇〇〇等の取組が進むことにより、〇〇〇〇や〇〇〇〇な暮らしが実現している。

※改ページ

（４）2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

【策定要領】

・2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲットを、経済・社会・環境のそれぞれの側面について記載してください。

・各ゴール、ターゲットについて、KPIを設定、記載してください。また、記載したゴール、ターゲット及びKPIについて、設定した理由を記載してください。

・1 つのゴール、ターゲットに対して複数のKPIを設定したり、複数のゴール、ターゲットに対して共通の KPI を設定しても構いません。

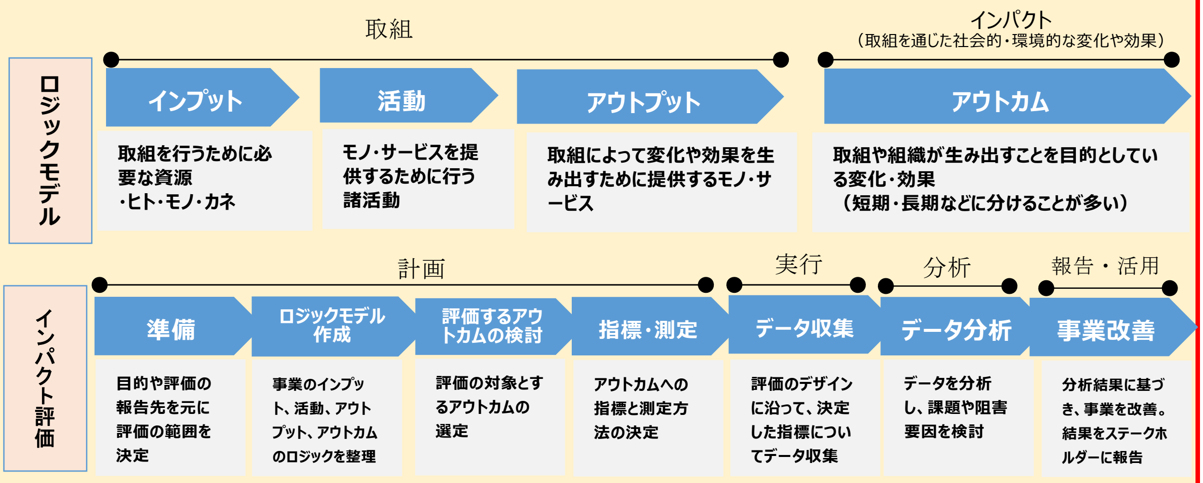
・KPIの目標年次は 2030 年を目安としますが、KPI を今後新たに検討、策定する予定がある場合は、現段階では暫定的な目標設定でも構いません。

【策定のポイント】

・選択するゴール、ターゲットの数に制限は設けていないが、総花的なゴール・ターゲットの選択となっていないか。

・KPIの設定においては、全体計画における、それぞれの施策推進に係る進捗を確認するうえで、適切な指標かどうかを精査できているか。

・可能であれば、例えば、以下に示すような事例を用いて「ロジックモデル」や「インパクト評価」の検討をしてください。


取組
インパクト
（取組を通じた社会的・環境的な変化や効果）
ロジックモデル
インプット
取組を行うために必要な資源
・ヒト・モノ・カネ
活動
モノ・サービスを提供するために行う諸活動
アウトプット
取組によって変化や効果を生み出すために提供するモノ・サービス
アウトカム
取組や組織が生み出すことを目的としている変化・効果
（短期・長期などに分けることが多い）
計画
実行
分析
報告・活用
インパクト評価
準備
目的や評価の報告先を元に評価の範囲を決定
ロジックモデル作成
事業のインプット、活動、アウトプット、アウトカムのロジックを整理
評価するアウトカムの検討
評価の対象とするアウトカムの選定
指標・測定
アウトカムへの指標と測定方法の決定
データ収集
評価のデザインに沿って、決定した指標についてデータ収集
データ分析
データを分析し、課題や阻害要因を検討
事業改善
分析結果に基づき、事業を改善。結果をステークホルダーに報告

※上記の図は、「社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアル」（Ver.2.0）

2017 年 6 月 29 日　GSG 国内諮問委員会　社会的インパクト評価ワーキング・グループから、抜粋。一部、事務局により加工

ロジックモデルの図：P9「ロジックモデルの用語について」、

インパクト評価の図：P7「図表２：評価の実践ステップ」

・必要に応じて、ローカル指標リスト（https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/kaigi/sonota/sdgs_shihyou_risuto_2.pdf）を積極的に活用できているか。

（経済）

ゴール、ターゲット番号	KPI	
アイコンをここに貼り付け　〇，〇	指標：〇〇〇〇	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇
アイコンをここに貼り付け　〇，〇	指標：〇〇〇〇	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇

　〇〇。

（社会）

ゴール、ターゲット番号	KPI	
アイコンをここに貼り付け　〇，〇	指標：〇〇〇〇	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇
アイコンをここに貼り付け　〇，〇	指標：〇〇〇〇	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇

　〇〇。

（環境）

ゴール、ターゲット番号	KPI	
アイコンをここに貼り付け　〇，〇	指標：〇〇〇〇	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇
アイコンをここに貼り付け　〇，〇	指標：〇〇〇〇	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇

　〇〇。

※記載例

（環境）

ゴール、ターゲット番号	**KPI**	
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに **ゴール：　7** **ターゲット：** **7．2、7．3、7．a**	指標：再生可能エネルギー導入量	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇

〇〇〇〇や〇〇〇〇といった地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入を進め、〇〇〇〇という2030年のあるべき姿の実現を図る。

※1つのゴール、ターゲットに対して複数のKPIを設定、または、複数のゴール、ターゲットに対して共通のKPIを設定する際の記載例

ゴール、ターゲット番号	**KPI**	
アイコンをここに貼り付け **ゴール：〇** **ターゲット：〇〇、〇〇、**	指標：〇〇〇〇	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇
	指標：〇〇〇〇	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇
ゴール、ターゲット番号	**KPI**	
アイコンをここに貼り付け **ゴール：〇** **ターゲット：〇〇、〇〇、** アイコンをここに貼り付け **ゴール：〇** **ターゲット：〇〇、〇〇、**	指標：〇〇〇〇	
	現在（〇年〇月）： 〇〇〇〇	2030年： 〇〇〇〇

※改ページ

２　自治体SDGsの推進に資する取組

（１）自治体SDGsの推進に資する取組

【策定要領】

・2030年のあるべき姿の実現、及び、優先的に取り上げるゴール、ターゲットの達成に向けて、先導的に進める取組のうち地域の象徴的な取組の概要について、記載してください。

・現計画で、自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）を記載されていた自治体においては、主に本セクションへ含める形で記載してください。

・各取組について、関連するゴール、ターゲット及び2030年のKPIを記載してください。

・1つの取組に対して、複数のゴール、ターゲット及びKPIを設定しても構いません。

・KPIの目標年次は2030年を目安としますが、KPIを今後新たに検討、策定する予定がある場合は、現段階では暫定的な目標設定でも構いません。

・地方創生推進交付金による資金的支援を希望する事業については、末尾に「（地方創生推進交付金申請予定事業）」と記載してください。

例：1．〇〇〇〇　関連するゴール〇〇、ターゲット〇〇　〇〇〇〇〇事業（地方創生推進交付金申請予定事業）

・計画の進捗管理の際には、KPIの達成度に関して、進捗した具体的な取組内容や2030年の目標達成に向けた取組課題や対応策等を記載いただく予定です。

以下の計算式を基本としKPIの達成度を測ります。

達成度の計算式（基本式）

$$\frac{(\text{現状値}(\text{進捗報告年の現状値})-\text{当初値}(\text{計画時の現在値}))}{(\text{目標値}(2030\text{年の目標値})-\text{当初値}(\text{計画時の現在値}))}$$

・上記の基本式で計算できないKPI（人口、空家数など維持を目標とするKPI等）とした場合は、別の計算式を用いても構いません。その場合は、使用する計算式についても併せて記載ください。

※参考　基本式で計算できない達成度の計算の対応例

例1．人口（現状値1,000人、目標値1000人）　現状値/目標値　の計算式を使用

例2．新庁舎の建設（現状値0件、目標値1件）　実施設計の完了で、50%の達成度

【策定のポイント】

・各取組は、前節で記載した優先的なゴール等の達成に資する包括的・戦略的なものであり、具体的に記載されているか。

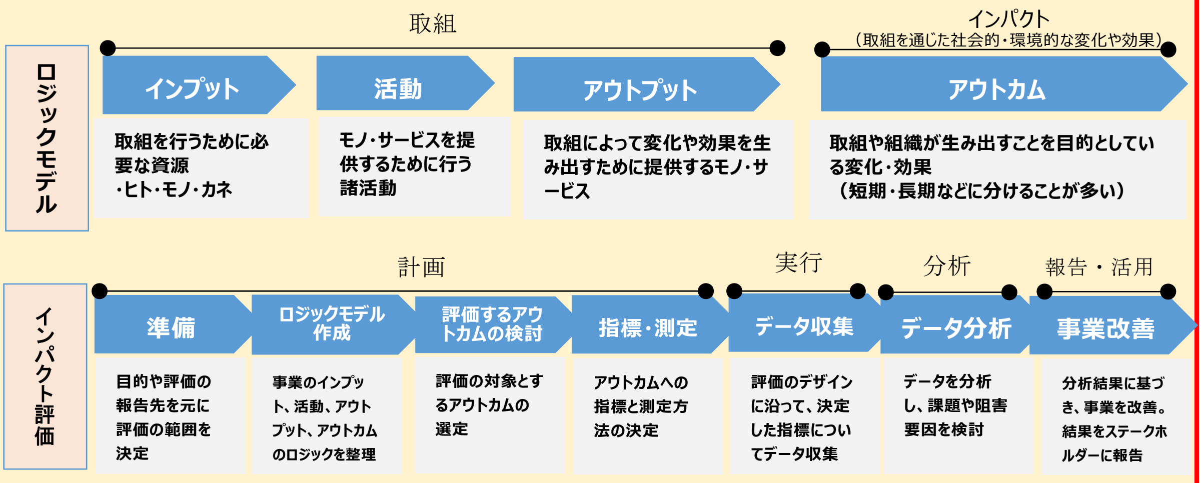
・選択するゴール、ターゲットの数に制限は設けてはいないが、総花的なゴール・ターゲットの選択になっていないか。

・記載する取組の数に制限は設けてはいないが、独自性のあるシンボリックな取組が記載され、総花的な記載となっていないか。

・KPIの設定において、それぞれの施策推進に係る進捗を確認するうえで、適切な指標かどう

かを精査できているか。

・可能であれば、例えば、以下に示すような事例を用いて「ロジックモデル」や「インパクト評価」の検討をしてください。


取組
インパクト
（取組を通じた社会的・環境的な変化や効果）
ロジックモデル
インプット
取組を行うために必要な資源
・ヒト・モノ・カネ
活動
モノ・サービスを提供するために行う諸活動
アウトプット
取組によって変化や効果を生み出すために提供するモノ・サービス
アウトカム
取組や組織が生み出すことを目的としている変化・効果
（短期・長期などに分けることが多い）
計画
実行
分析
報告・活用
インパクト評価
準備
目的や評価の報告先を元に評価の範囲を決定
ロジックモデル作成
事業のインプット、活動、アウトプット、アウトカムのロジックを整理
評価するアウトカムの検討
評価の対象とするアウトカムの選定
指標・測定
アウトカムへの指標と測定方法の決定
データ収集
評価のデザインに沿って、決定した指標についてデータ収集
データ分析
データを分析し、課題や阻害要因を検討
事業改善
分析結果に基づき、事業を改善。結果をステークホルダーに報告

※上記の図は、「社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアル」（Ver.2.0）

2017 年 6 月 29 日　GSG 国内諮問委員会　社会的インパクト評価ワーキング・グループから、抜粋。一部、事務局により加工

ロジックモデルの図：P9「ロジックモデルの用語について」、

インパクト評価の図：P7「図表 2：評価の実践ステップ」

・必要に応じて、ローカル指標リスト（https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/kaigi/sonota/sdgs_shihyou_risuto_2.pdf）を積極的に活用できているか。

① ○○○○○

ゴール、ターゲット番号	KPI	
アイコンをここに貼り付け　○，○	指標：○○○○	
	現在（○年○月）： ○○○○	2030 年： ○○○○

・○○○○○

○○○。

・○○○○○

○○○。

・○○○○○

○○○。

② ○○○○○

ゴール、ターゲット番号	KPI	
アイコンをここに貼り付け ○，○	指標：○○○○	
	現在（○年○月）： ○○○○	2030 年： ○○○○

・○○○○○
　○○。

・○○○○○
　○○。

・○○○○○
　○○。

③ ○○○○○

ゴール、ターゲット番号	KPI	
アイコンをここに貼り付け ○，○	指標：○○○○	
	現在（○年○月）： ○○○○	2030 年： ○○○○

・○○○○○
　○○。

・○○○○○
　○○。

・○○○○○
　○○。

※改ページ

（２）情報発信

【策定要領】

・自治体SDGsの情報発信について、域内向け、域外向け（国内）、海外向けに分類して記載してください。

【策定のポイント】

・取組を効果的に発信し、普及啓発できる仕組みが構築されているか。

（域内向け）

　○○。

（域外向け（国内））

　○○。

（海外向け）

　○○。

（３）普及展開性

【策定要領】

・類似の背景、課題、資源を持つ地域への展開策を記載ください。

【策定のポイント】

・他の地域への普及展開として、取組体制、取組方法、取組内容等が、SDGsに取組む、他の地域にとって活用しやすい内容かという観点を踏まえているか。

・取組の普及展開に関して、内外の他自治体、他機関等と連携してパートナーシップを推進する取組があるか。

（他の地域への普及展開性）

　○○。

※改ページ

３　推進体制

（１）各種計画への反映

【策定要領】

・総合計画、地方版総合戦略、環境基本計画、その他の各種計画へのSDGsの反映状況及び反映予定について、記載してください。

・反映する内容（例：SDGsの体系に沿って施策等を整理、冒頭文にSDGsを明記等）と、反映状況（反映済み、あるいは反映予定の場合はその時期等）を明記してください。

【策定のポイント】

・自治体行政におけるSDGsの主流化に向け、各種計画へのSDGsの反映が進んでいる（または今後予定されている）か。

1. ○○○○
　○○。

2. ○○○○
　○○。

※記載例

1. 総合計画
　○年を目標年次とし、○○○○を定める総合計画について、SDGsを○○○○として位置づけることを○○○○に明記し、取組を推進していくこととした。（○年○月改定済）

2. ○○計画
　○年を目標年次とし、○○○○を定める○○計画について、SDGsの体系に沿って全施策を整理して記載する予定。（○年○月改定予定）

※改ページ

（２）行政体内部の執行体制

【策定要領】

・本計画を推進するための行政体内部の執行体制や、首長の役割について、その目的や内容等を踏まえて概要及び体制図を記載してください。

・構成員、役割・責任分担、意思決定プロセス等について明記してください。

【策定のポイント】

・首長のリーダーシップの下、2030 年のあるべき姿に向かって行政組織内のセクター間の意見を調整し、取組を強力に執行する体制が構築できているか。

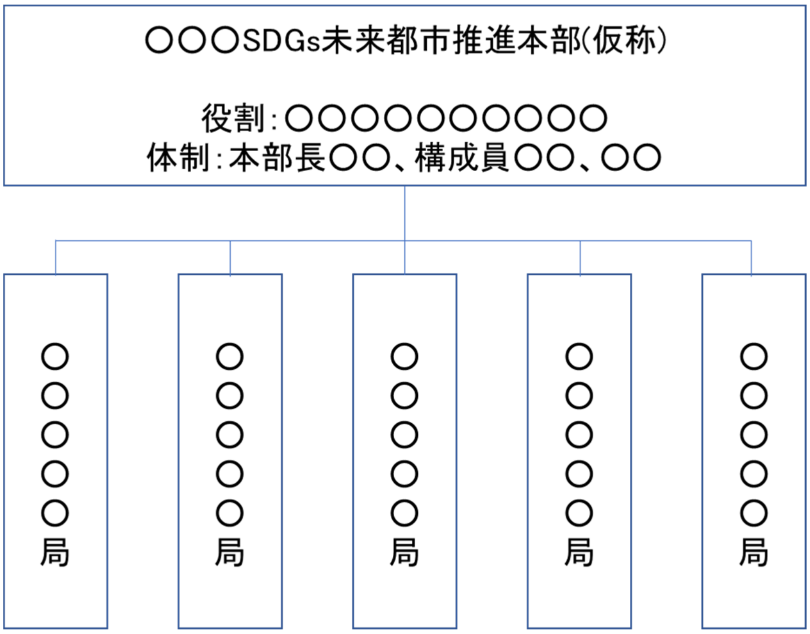
・17 のゴールに関わる担当部局の情報を総合化・集約化し、分野横断的な施策を立案、実施する SDGs の推進母体となる組織が設置されているか。

・執行体制内で、適切な指標を用いた進捗管理を行う見込みがあるか

〇〇。

※記載例

庁内の横断的・統合的な SDGs 推進のため、首長直轄の●●本部を創設、地域内外のステークホルダーへの協力を呼びかけるため、首長による●●宣言を採択


〇〇〇SDGs未来都市推進本部(仮称)
役割：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
体制：本部長〇〇、構成員〇〇、〇〇
〇〇〇〇〇局
〇〇〇〇〇局
〇〇〇〇〇局
〇〇〇〇〇局
〇〇〇〇〇局

【体制図のイメージ（例）】

※改ページ

（３）ステークホルダーとの連携

【策定要領】

・ステークホルダーとの連携内容及びそのメリットを、域内外の主体（住民、企業・金融機関、教育・研究機関、NPO等）、国内の自治体、海外の主体に分類して、記載してください。

・具体的な連携相手の名称及び連携内容が決まっている場合は、その詳細を記載してください。

【策定のポイント】

・各ステークホルダーの位置づけ、役割は明確になっているか。

・記載するステークホルダーの数に制限は設けてはいないが、「住民」、「企業・金融機関」、「教育・研究機関」、「NPO等の団体」以外については、独自性のあるシンボリックなステークホルダーを記載しており、過度に冗長な記載となっていないか。

１．域内外の主体

〇〇。

２．国内の自治体

〇〇。

３．海外の主体

〇〇。

（４）自律的好循環の形成

【策定要領】

・地方創生SDGsに積極的に取り組む地域事業者等と連携し、自律的好循環の形成へ向けた登録や認証の制度の構築といった取組等について記載してください。

・検討中又は今後検討を行う予定がある場合は、その旨を記載してください。

【策定のポイント】

・将来的に補助金に頼らずに、事業として自走をめざしていくことについて、財源確保等を踏まえ具体的に記載されているか。（例：一般社団法人を設立し、企業との連携等により自主財源を確保等）

（自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等）

　〇〇。

（将来的な自走に向けた取組）

　〇〇。

※改ページ

４　地方創生・地域活性化への貢献

【策定要領】

・本計画「１．１（１）地域の実態」で整理した「②今後の取組む課題」の解決に、本SDGs未来都市計画の取組がどのように貢献するかを記載してください。

【策定のポイント】

・都市の課題解決はもとより、「SDGs未来都市」としての成功事例を普及展開し、全国の地方創生の推進にも貢献していくことが記載されているか。

○○。

※改ページ

自治体名　　　第２・３期ＳＤＧＳ未来都市計画
（2026～2030）

令和〇年〇月　策定